

1 研究主題

学びひたる

— 三位一体の学び「TDL」を実現する —

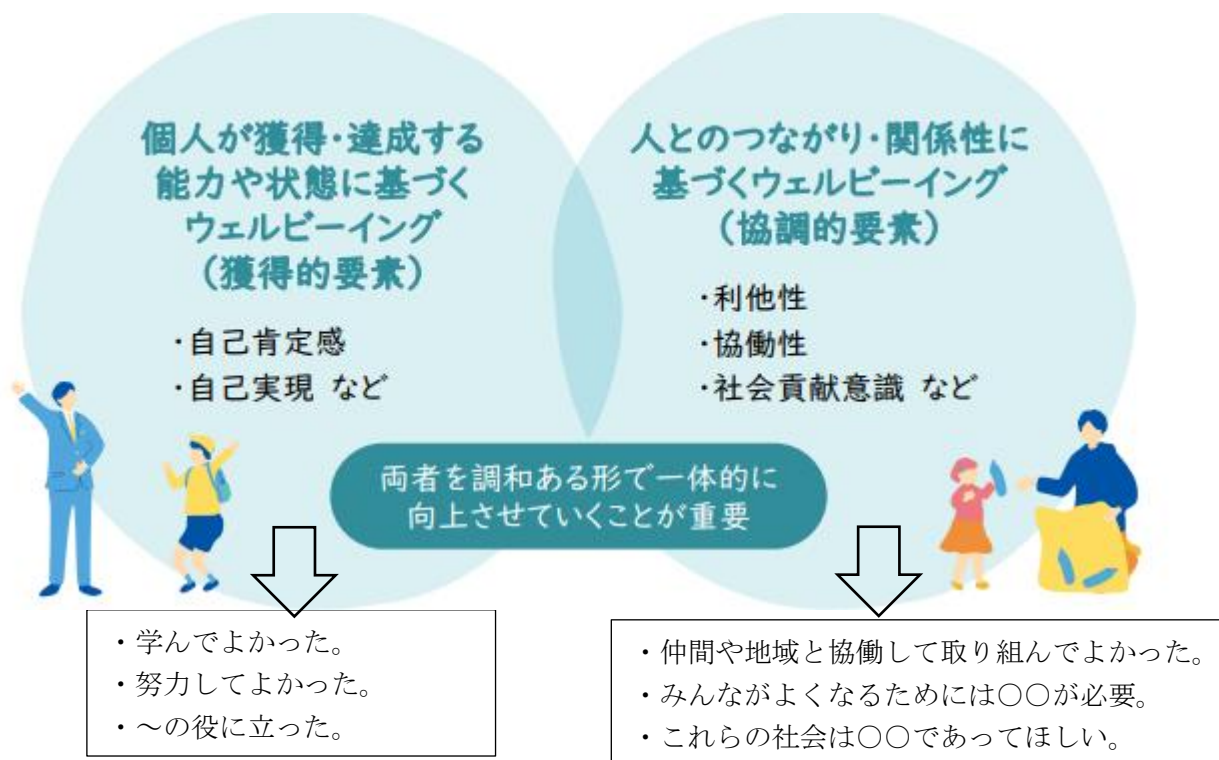
1 学びひたる子どもの姿 ～ウェルビーイングの視点でとらえて～

- ・ 学びひたる状態 = 課題に対して没頭している状態。没頭していると心の「知・情・意」が高まり、パフォーマンスがあがる。(慶応義塾大学 鹿毛先生)
- = 今のウェルビーイングを実感すると同時に、未来のウェルビーイングの実現を期待しながら学んでいる姿

ウェルビーイングとは

- 心も体も人との関係も良い状態にあることをいい、今も未来も持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個も場も社会も幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念

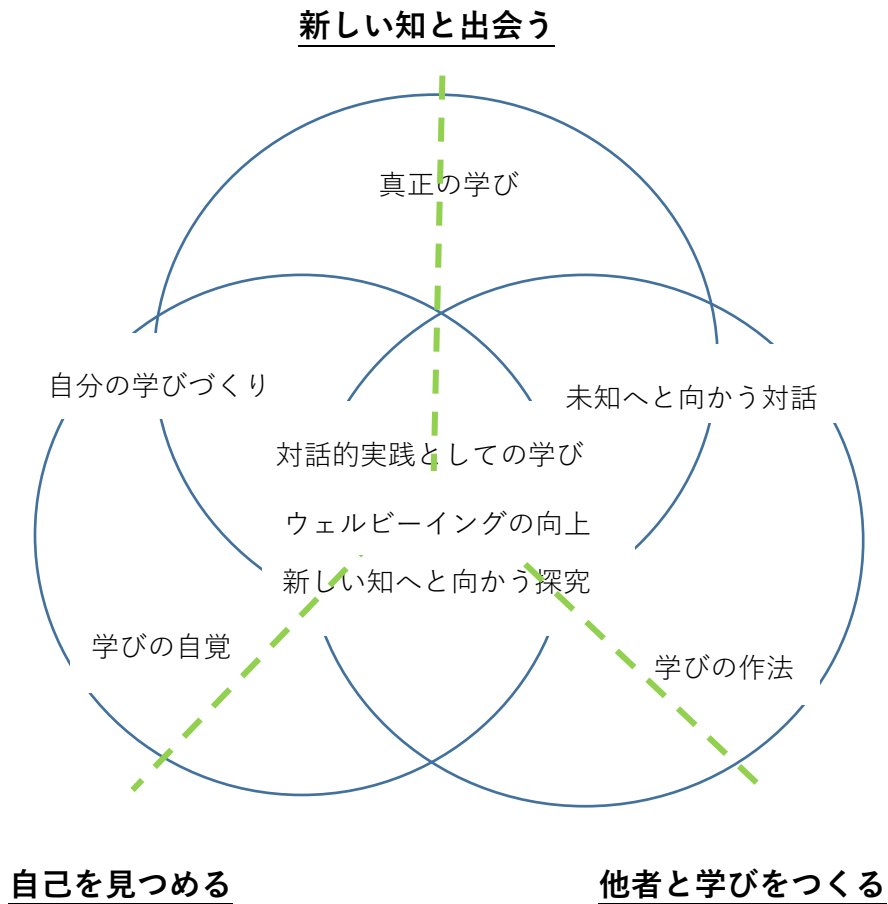
※ 近年、幸せの研究が進み、ウェルビーイングを感じる人の方が、より多くのことを成し遂げられることが分かってきたため、ウェルビーイングの向上が必要となってきた。



参考資料：教育振興基本計画（第4期） 令和5年6月16日

： YouTube テレ東【公式】 秒でNEWS180 「ウェルビーイングってなに？」

2 三位一体(TDL)の学びとは



三位一体(「新しい知と出会う」「自己を見つめる」「他者と学びをつくる」)の3つの軸を大切にし、授業をデザインする。

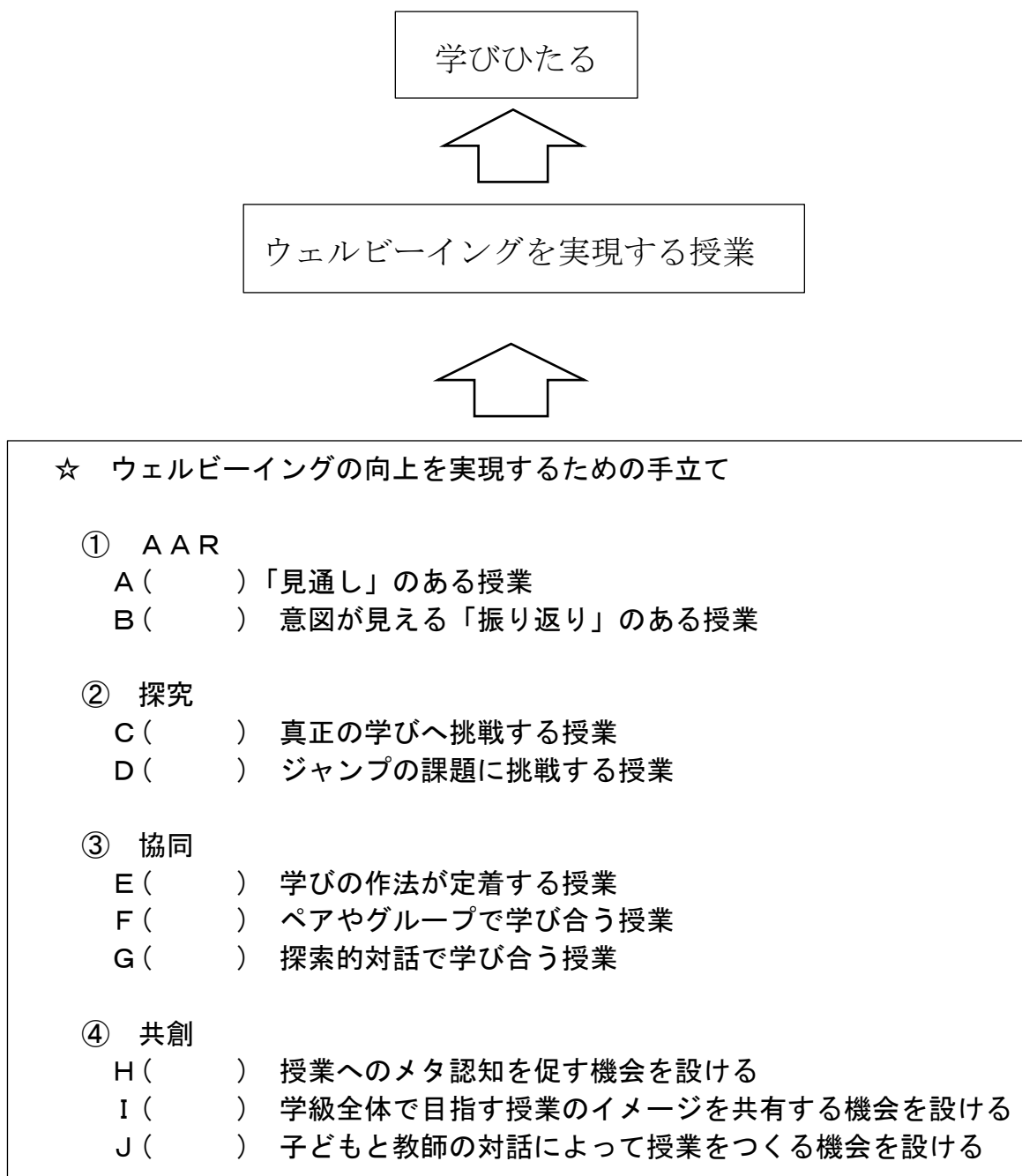
※ 前年度までは「学びの自覚」の1つの要素である「学習を調整する」こと、「学びの作法」が児童に定着することに重点を置いて研究を行った。

○ 学習を調整するとは

課題に対して見通しをもって行動し、その行動がどうであったのかを振り返ることで、次の学びにつなげること。1時間の授業の中や単元を通して調整することもある。

※ 1、2年生は、3年生から学習を調整することができるようになることを見越し、発達段階に応じて指導をしていく。

3 本年度の重点的な取り組み



() の中に以下の記号を入れ、今年度の重点目標を決めましょう。

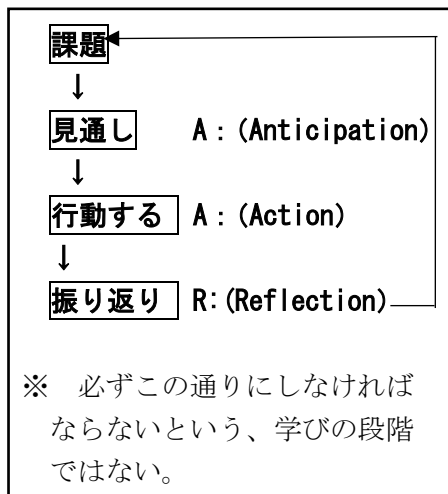
◎・・・重点的に取り組みたいもの

○・・・できれば挑戦したいもの

☆・・・学年で「これはする」というもの

4 研究の具体的な手立て

① AARについて



② 探究について

課題・・・(1) 真正の学びになるような課題づくりの工夫
(2) ジャンプの課題を設定する

見通し・・・見通しキーの活用

行動する・・・各教科の手立ての活用

振り返り・・・振り返りキーの活用、ポートフォリオの活用

※ 探究的な学びとは

自ら問いを立てて、その解決に向けて情報を収集・整理・分析し、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学び。

見通しを持とう

見通しは、課題にせまるための作戦会議
次のキーを使って作戦を考えよう ここまでは分かるけど

- よそうキー：こうなりそう、これくらい、○○かな？
- みかたキー：どこ見る？、○○に目をつけよう
- あいであキー：くらべて、つなげて、わけて、まとめて考えよう
- ほうほうキー：どうやって？、○○で調べよう、聞いてみよう
- じゅんじょキー：何から？、次は？、どの順番？

【 見通しキー 】

ふりかえりを書こう！

ふりかえりはみんなの成長記録。今日の自分の「まなび」を文章で表してみよう。
次の中から、いくつかのキーを使ってみよう。

- みかたキー：○○に目をつけて、～の見方で
- ひらめキー：～と比べて、～とつなげて、まとめて、分けて
- なまかキー：○○さんの意見で、○○さんは、～からわかった
- のびたキー：わかるように（できるように）なった、前とくらべて
- はてなキー：～に疑問を持ちました、わからないのは
- みらいキー：～の役に立つ、次の時間は、～を調べてみたい（ウェルビーイング）これからは、学んだ意味は、みんながよくなるために

【 振り返りキー 】

ウェルビーイングの視点の振り返り

単元名 水を治める

暴れる水を治めるためには、どのようなことが必要なのだろうか。	木曾三川の下流域を、水害から守るためにどんなことが必要なのだろうか。 見通し 振り返り
宝暦治水後の水害をさらに減らすためには、どのようなことが必要なのだろうか。 見通し 振り返り	単元全体の自分の見通しはどうであったのか。学んだことや学び方はどうであったのか振り返りをしよう。

【 ポートフォリオ 】

③ 協同について

(1) 学びの作法が定着する授業

学びの作法

- ① 仲間の言葉をよく聞く
- ② 自ら仲間の力を借りる
- ③ わかったふりをしない
- ④ 困っている友達には、さりげなく手をさしのべる
- ⑤ 頼られたら最後までよりそう

(2) 一斉授業から脱却し、ペアやグループ、コの字で学び合う授業

(3) 探索的対話で学び合う授業

発表的対話(分かっていることを伝え合うだけ)でなく、

- ・ どういうこと？ ・ 何で？ ・ どうやるの？
- ・ どうして？ ・ どっち？ ・ どういう意味？

などの未知に向かう言葉の交流

④ 共創について ※すべての学級で取り組みます。

○ 児童と教師が目指す学びの姿を共有し、その実現にともに関与しようとする授業づくり

→ どんな学びがしたいか（できるのか）を児童と教師がともに考える授業づくり

（授業をメタ認知する）

「授業は与えられるものではなく、みんなで一緒につくるもの、変えられるものである」

「自分もまた授業づくりの主体者であり、その責任を負う一人である」児童と共に授業をつくる



— そのための手立て —

4 月… 教師が目指したい授業を児童に伝え、授業の様子を把握する。

5 月… 教師の目指したい授業に近づいたか、または児童はどのような授業をつくりたいのか、現状はどうなのかをアンケートなどで把握し、児童と共に目標を決め、掲示する。

9 月下旬… 授業の現状を共有し合い、児童と共に目標を見直す

1 月下旬… 授業の現状を共有し合い、児童と共に目標を見直す

※ 1、2 年生は教師の目指したい授業を伝え、目標を設定する。